

第3部 フロアセッション

第3部は10人程の小グループに分かれて、グループセッションを行った。各グループには日本生活科・総合的学習教育学会の会員が司会・記録を務め、グループメンバーから意見を引き出していく形で進化した。各グループは小学校から高校までの教諭、中には大学院の学生や校長など校種や地域の異なるメンバーで構成され、お互いの悩みを出し合いながら解決していくという内容の濃いものになった。話の内容については、第1部、第2部の感想や、教員たちが日々抱えている総合に対する課題など多くの学校、教員において、どのグループでも同じような悩みや問題が挙げられ、多くの学校において、共通した課題があることが伺えた。

今の総合学習における課題としては、全体的にこの授業の意義を感じ、実践している教員は多いものの、校内での教員同士の意識の差や指導技術の問題があげられ、有効に総合を進めていくことはまだ難しいようである。しかし、子どもたちの総合に対する学習効果は着実に現れ、総合を好きな教科としてあげる児童生徒も少なくないという意見がいくつか挙げられた。



反面、指導方法等が原因で、総合学習に対して嫌悪感を示す児童生徒もおり、彼らへの対処を含めた指導方法、技術をどうすればよいか、ということも課題として挙げられていた。

以下にグループごとの討議内容と、出された意見をまとめる。

G 番号	セッション内容	課題・問題点・今後に向けて等
1	本日のシンポジウムで感じたこと	(北杜高校の教員がセッションに加わる) ・総合学習の必要性を現場ではなかなか感じにくいだが、今後の可能性が深まった。 ・中高の様子がわかってよかった。 ・総合学習の必要性を改めて感じた。 ・総合学習を進める前に、生徒の現状など問題は山積みであるが、そういう中で総合学習にどうやって取り組んでいけばよいかが見えない。 ・テーマを設定するのが難しいが、学びの意味を見つけることが大切。 ・子どもにつけさせたい力を考えることが必要である。
2	本日のシンポジウムを聞いて	(北杜高校の教員生徒がセッションに加わる) ・これからの授業に役立てたい。また、事例発表を聞いて、これが総合学習の効果だと再認識した。 ・テーマ設定は難しい(子どもにとっても)が、自分で活動することは子どもが楽しめる授業である。

	カリキュラムについて	<ul style="list-style-type: none"> ・小中共通のカリキュラムがあるとよい。総合学習は最後のまとめが難しいので。
	評価について	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画の評価が難しい。
3	第1部・第2部を受けて	<ul style="list-style-type: none"> ・総合学習の重要性を感じると同時に、教師のスキル不足もある。子どもの生の声が聞けてよかった。 ・総合学習を研究している学校がまだまだ少ない。
	決められた時間数の中で、どう学ばせたら良いか	<ul style="list-style-type: none"> ・時間減少に伴い、目標が明示され、方向性が明確になったと思う。今後について先細ることはない。また、現場では、クラス全員が課題をこなせないという問題もあるが、一人ひとりの課題を持たせることが大切。
	伊那小における総合学習の扱いについて	<ul style="list-style-type: none"> ・教科と総合とで、お互い補完しあう。両方あって当たり前のことである。
4	第1部、第2部の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・時間のゆとりがなくなる中で、どのように実践していくか。 ・生の声が聞けて、子どもの成長を目の当たりにできてよかった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように子どもたちに力をつけていくか。 ・総則における総合の取り扱いについて 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科と総合をいかに関連させていくかを今一度見直す必要がある。 ・育てたい力に対して、共通理解を図る。 ・総合学習で学んだことが教科で活かされるなど、関連している。 ・総合学習の授業を共有化（情報・技術・プランなど）することは大切である。マスタープランのようなものもあったほうがよい。
5	大洗における、小中学校の連携など、全体的な質問	<p>(大洗中の教員・生徒がセッションに加わる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校間連携というのはあまりないが、時間をある程度かけて子どもの情報をつかんでいくので、あまり差がない。 ・総合学習の研究に取り組んでいた時期と、今では教師間に差がある。 ・カリキュラム作成においては、「響く・聞く」に力を入れている。 ・総合学習の時間削減については、大きなテーマでの取り組みであればさほど問題はないが、いくつもの単元を組み合わせようとすると、難しいかもしれない。
	1部・2部において、今日の学校に生かせるところについて	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの何を育てるかを見失ってはいけないと感じた。子どもが自信を持って自分のことを語れるというところがよかった。 ・生活科の現状はどうなっているのか。 ・総合学習だからみんなが喜ぶとは限らない。気になる子をどうするか。 ・授業において、やらされたことが、子どもが嫌になってしまう原因となることが多い。考えたことを残すこと、それも立派な総合だと話をしているが、こういう対応は稀である。しかしこういう対応も必要とされる状況があるのも事実。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・教員みんなでやる気を出すためには？ 	<p>(伊那小の教員がセッションに加わる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内で、(総合の)リーダーとなるような人がいて、その人が、カリキュラムや授業に関わるシステムを構築し、引っ張っていくと、できるのではないかと。例えば引き出しのない1年目の初任者でも、聞けばわかるようなシステムが出来上がっていることが望ましい。 ・誰でもいつでもできる実践事例を持つておく必要がある。
	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスごとに総合を行っている学校では、差が出てしまうのでは？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員自身が楽しいと思う授業を行う。 ・テーマに合わせて、自分たちなりに関わることを見つける。